

水族館で学ぶ謎解きプロジェクト

実施主体：海なぞ実行委員会

背景 & 課題

▼この事業の主題（海のどんな課題を解決するのか、もしくは学ぶのかといった、テーマ設定と海の課題・学びポイントの整理）

謎解き×教育というツールを利用して幅広い層へ海洋問題の啓蒙を行い、ツール自体を全国の水族館で自走化するプロジェクト。
「エデュテイメント」として老若男女問わず人気の高い謎解きを利用して、海洋問題について「楽しみながら学べる」コンテンツを制作したうえで、これをパッケージ化し、運用負荷を最小限にすることで水族館側に自発的に推進してもらう状態を作り、学びの場としての水族館の位置づけを改めて明確化させる。

2019年度実施内容のまとめ

実施①  福島・東京・兵庫・島根・福岡の様々な規模の水族館にて開催。集客と学びのツールとして導入される。

実施②  各界の有識者の監修を受けながら、ブラウザゲーム・海の学びを落とし込んだ謎・解説の小冊子を開発。

実施③  SNSやweb上で事前に海の学びを含んだ謎を発信、イベント終了後にも投稿を促進する仕掛けを実装。

量的成果（事業の拡がり）

- ① 計5館の水族館で各1ヶ月間イベントを実施。また周辺の公共施設・商業施設が本イベントのチラシ・ポスターを掲出。約1万枚が掲出される。
- ② イベント開始前から多数の事前申込があり、福島/福岡/兵庫/島根では合計で約3,000人、また延期されたサンシャイン水族館では約3,000人を動員。
- ③ WebサイトのPV数84,301、独自のハッシュタグ「#海なぞ」のインプレッション数324,400と、web上でも多くの注目を集めた。（2020年1月現在）

質的成果（次なる展開への芽）

- ① こちらからオファーした有識者だけに留まらず、各実施先が「自分ごと」として監修・開発に携わった結果、水族館との強固なつながりを確立できた。
- ② イベント終了後に、開催水族館より「今後同様の教育×謎解きのオリジナルコンテンツの制作を検討したい」との打診があった。
- ③ イベント期間終了後に(株)日本水産より、須磨水族園の貸し切りイベント開催時に自費で本プログラムを実施したいとの申し出があり、特別開催決定。

2019年度
課題点

- ① 「海の学び」を謎解きに落とし込むメソッドの構築に時間を要した
- ② 制作期間が長大化したことでリソースが枯渇した
- ③ 地域ごとのカスタマイズが最小限にとどまった

2020年度
改善点

- ① 得られたノウハウを体系化する
- ② 体系化されたメソッドを活用し制作を効率化する
- ③ 上記により削減した工数で地域ごとのカスタマイズを強化する

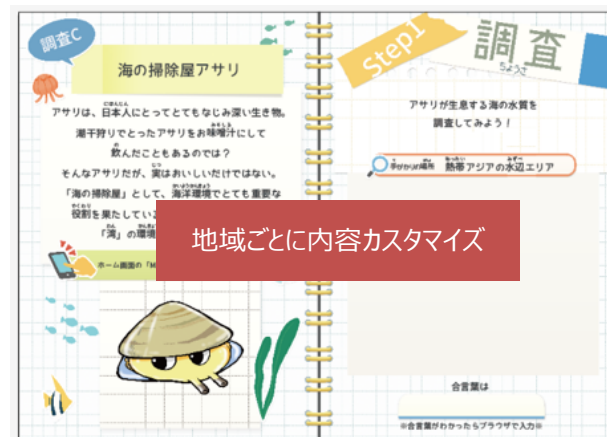
報告資料・主な制作物について



メインビジュアル



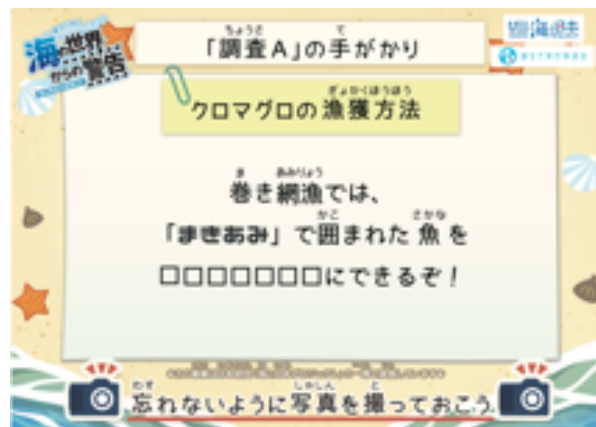
汎用性の高いブラウザゲームを開発
ノベルゲーム調にすることで内容・セリフが頭に入りやすい



地域ごとに内容が違う解説冊子を作成。解いた謎がどう海の学びにつながっているのか、イベント後にも振り返りが可能



受付およびゴール地点にフォトスポット・フォトボックスと共に
海プロ横断幕を前面に掲出



館内 6 箇所に掲出する「手がかり」パネルにも
海プロロゴを掲出



ブラウザゲーム上のシェア機能によりイベント終了後の
拡散導線を確保、SNS上での投稿の活性化を促進

報告資料・ゲームの流れ



地域ごとに
内容カスタマイズ



冊子、パネルどちらかだけでは謎は解けない。
両方の情報をつかって挑むことが必要。

受付で謎キット（冊子・筆記用具）を受け取る

QRコードを読み込み、各参加者のスマホ上でブラウザゲームを起動。指示通りに館内を周遊

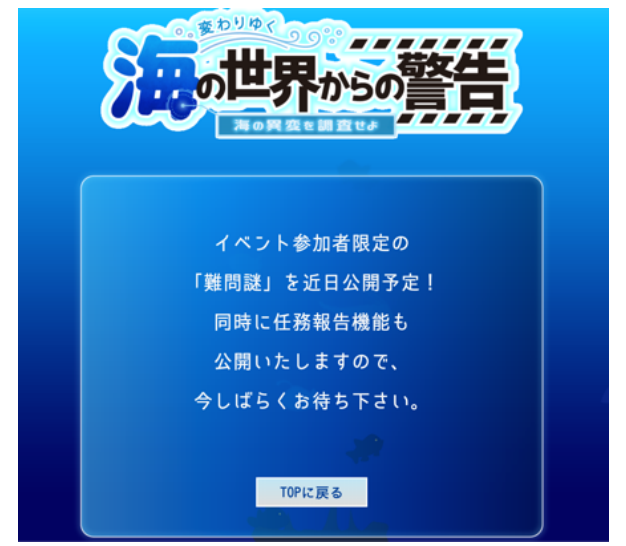
周遊しながら館内に掲出されている「手がかり」パネルを発見し、それをもとに冊子の謎を解き明かす



正解すると、ブラウザゲーム上で関連する海洋問題や地域ならではの海に関する解説を聞くことができる



終了後に受付に戻り、アンケートに回答すると海洋問題に関する解説冊子とノベルティの缶バッジがもらえる



イベント終了後もウェブサイト上で参加者のみが参加できるコンテンツや追加の謎を配信。益々の盛り上がりを出す

ひょうごばん
兵庫版
コラム

こんかく
混獲されたウミガメを救え！
だっしゅつそうち
脱出装置について

きんねん ねんかんやく とういじょう すなはま
近年、年間約500頭以上ものウミガメが砂浜に
しぼうひょうちやく
死亡漂着しています。その原因は様々ですが、
えんがんぎょびょう
沿岸漁業における「混獲」が1つの重要な問題だと
いわれています。混獲とは狙っている獲物以外の
さかな あやま りょうぐ
魚などが誤って漁具にかかってしまうことを
いいますが、こうして漁具にかかったウミガメが
かいめん い できなく こときゅう
海面まで行けなくなると、呼吸ができずに死んで
しまいます。漁業者にとっても心の痛いできごとで、
いち早くウミガメの混獲死を減らす解決策が
もと
求められています。
にほん
日本でウミガメの混獲が起こりやすいのは定置網※
ぎょほう ていぢあん さまざま かたち
という漁法です。定置網には様々な形が
ありますが、なかでも網がすべて海中に沈んで
ていぢあん
いるようなタイプの定置網では、混獲されたウミ

かちゅう せっち かいゆう ぎょぐん さそ こ ぎょかく ほうほう
※海中に設置し回遊する魚群を誘い込んで漁獲する方法。

ガメが死んでしまうことがあります。
そういった状況を受け須磨水族園では漁業者やNPO、
だいがく せいもうがいしゃ れんけい だっしゅつそうち
大学、製網会社などと連携し、ウミガメの「脱出装置」を
かいはつ
開発してきました。これは、定置網に迷い込んだウミガメが
じぶん ちから だっしゅつ
自分の力で脱出できるようサポートする装置で、扱いやすい
シンプルな構造でありながら漁獲すべき獲物は逃がさず、
やわ
柔らかなつくりでウミガメを傷つけないよう配慮されています。
ぎょぎょう せいぶつぜん りょうりつ こころ せかいじゅう
漁業と生物保全の両立をめざした試みは世界中の
ちゅうもく あつ
注目を集めており、普及に向けた動きが進んでいます。



解説冊子内では各海洋生物や海洋問題の解説だけに
留まらず、その地域ならではの「コラム」ページも用意。
兵庫版では須磨海浜水族園の研究教育課と連携し、
ウミガメ保護に関する独自の取り組みを紹介。

報告資料・メディア露出リスト

テレビ



変わりゆく海の世界からの警告
海の異変を調査せよ

開催期間 1月26日(日)まで開催中
受付時間:午前10時~午後4時

会場 神戸市立 須磨海浜水族園
(神戸市須磨区)

参加費 無料(要入園料)

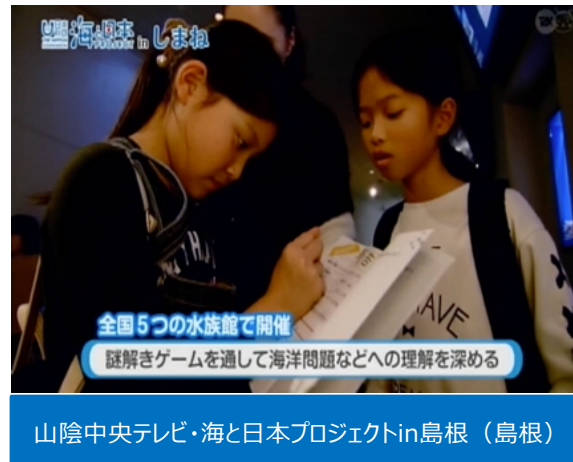
参加方法 イベント公式サイトより事前申し込み
※当日券もご用意していますが数に限りがあります
詳しくは... [海なぞ](#)

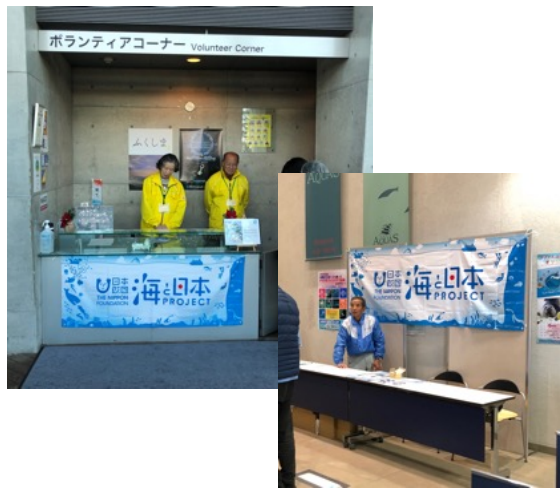
サンテレビ・サンぶん! (兵庫)

web

- ・共同通信 (福島)
- ・日本海事新聞 (福島)
- ・トレナビ (福島)
- ・いわき市観光サイト (福島)
- ・なぞとも (福島)
- ・ウォーカープラス (福岡)
- ・じゃらん (福岡)
- ・よかなび (福岡)
- ・Yahoo!ニュース (福岡)
- ・Feel KOBE (兵庫)
- ・Kiss PRESS (兵庫)
- ・関西文化.com (兵庫)
- ・ウォーカープラス (島根)
- ・JAPAN ATTACTIONS (島根)
- ・FNN PRIME (島根)
- ・米子鬼太郎空港 (島根)

・・・計16媒体 (1月現在)





受付



水族館が自主制作した運営ツール

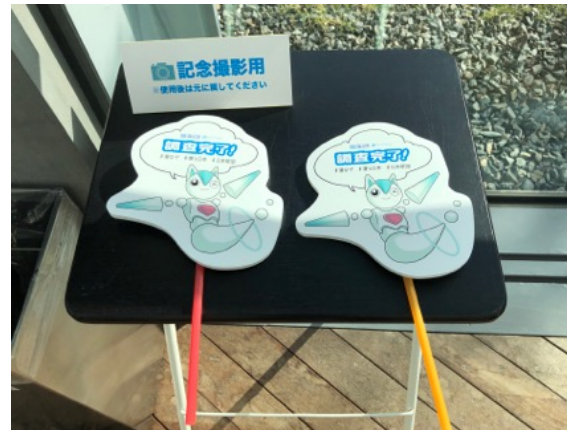
水族館担当者コメント

・楽しさ+海洋教育につながると思い、導入しました。水族館は海について普及を行っていかねばならない。その中でよいきっかけになると考えた。

・科学的知見との整合性のとれた内容を、分かりやすく伝えることができるか不安だったが、担当者とのやりとりの中で、謎の内容等、確認をさせていただき、解消することができた。



フォトブース



フォトプロップス

・シンプルに見えるつくりながら、様々なことを複合的に取り扱っており、また、学術的な背景も意識されているため、良い学びのコンテンツであると感じている。

・今後も「海なぞ」のような教育×遊びをテーマとした謎解きイベントを自社オリジナルで制作したいと考えている。